



エッセイスト 近藤 節夫

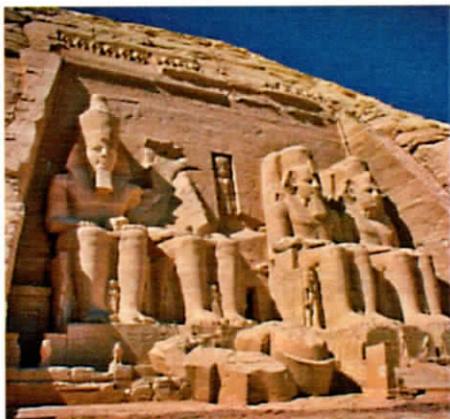
世界の国々が協力して人類の遺産を守るべきであるとユネスコ世界遺産が登録されるようになったのは、水没する運命にあったナイル河畔の石壁に彫られたアブ・シンベル神殿を台地に移設したことがキッカケである。ラムセス2世がBC1250年頃に自らの大神殿と愛妻ネフェルタリ王妃のために完成させた小神殿からなる、砂岩をくり抜いた岩窟神殿である。

それはエジプトの首都カイロから南へ1,180kmのアスワン・ダムから、さらに280km南下したナイル川に造成されたナセル湖沿いにある。

エジプト革命によりファルーク王政を倒して英雄となり、世界的にも知名度の高かったナセル大統領は、当時一部の日本人の間でも「ナセバナル ナセルハ アラブ(当時エジプトはアラブ連合)の大統領」と囃されたくらいである。ナセル大統領は、ナイル川を治水灌漑のために一部堰き止め、ナセル湖を造成した。そのためナイルの川面が上昇し、川沿いの古代遺跡が水没する危機に瀕した。中でも貴重なアブ・シンベル神殿は水没の運命にあった。この時、貴重な古代文化遺産を何とか水没から救いたいと国際的な支援の話が持ち上がった。

アブ・シンベル神殿の移設のためにユネスコを主に世界各国から支援が決まり、この古代遺跡は分解され、移築されることになった。1千個以上の岩の塊に解体され、水位の及ば

ない64m高い丘の上に移築された。大神殿は幅約38m、高さ約33mの岩肌に4体のラムセス2世像があり、小神殿は王妃ネフェルタリの像を中心に高さ10mの立像が6体並んでいる。

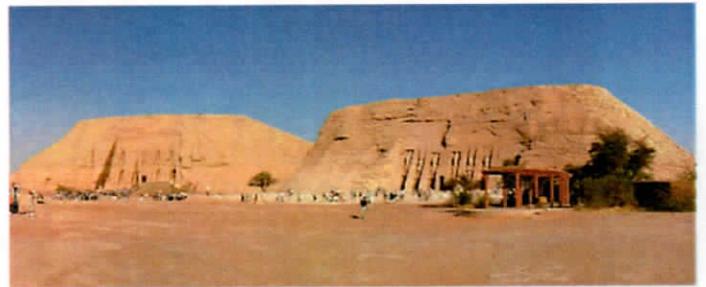


丘の上に移築されたアブ・シンベル大神殿

これらの神殿移築は、工事に5年あまりの時間と多額の費用をかけて1968年に完成した。それから間もなくしてユネスコが、世界遺産制度を創設して世界的に価値のある文化遺産、自然遺産を登録し保全するようになった。アブ・シンベル神殿も国際的な支援により水没から守られ、その後ヌビア遺跡群のひとつとして世界文化遺産に登録された。

1967年第3次中東戦争敗戦で一時権威を失った英雄ナセルだったが、多くのエジプト国民に慕われ、惜しまれながら神殿の移設と安泰を確かめるように、神殿移設2年後の70年、52歳の若さでこの世を去った。その中東戦争直後に敗戦国エジプトを訪れた時、カイロ市民らがまもなくアスワン・ダムが完成し、人造湖・ナセル湖ができ、そしてナイル川沿いの古代遺跡のアブ・シンベル神殿が地上にお目見えすると嬉しそうに話していた。

念願だったアブ・シンベル神殿を訪れたのは、移築してから21年も後のことだった。岩窟神殿の前に立ち、移設の謂れをあれこれ想い、体内から湧き上がって来る神があった迫りに圧倒されたものである。

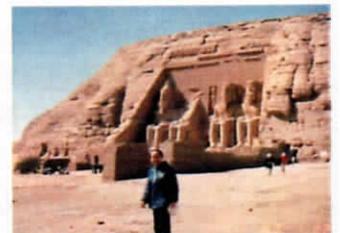


左が大神殿、右が小神殿 (Wikipediaより)

このアブ・シンベル神殿には、古代エジプト王家の伝統、歴史、天文、占いなどの知識がぎっちり詰まっている。大神殿内の入り口から47mの正面奥には4体の像があり、ラムセス2世の誕生日・2月22日と即位の日・10月22日の毎年2日間は、太陽光線が神殿内部を通過して像を照らすように設計されていた。しかし、移設の際計算違いが生じたのか若干ずれて、今では光は像の正面からやや外れてしまっている。

アブ・シンベル神殿前ではカイロのピラミッド前と同じように夜間には、スペクトルな「サウンド・アンド・ライト・ショー」と呼ばれる音と光の幻想的なショーが行われる。音楽と解説を交えてファサードがライトアップされ、さらに神秘的な光景が繰り広げられ、現代人を偉大なるラムセス2世のエジプト栄光の時代へ導いてくれる。

アブ・シンベル神殿は世界的にも評価が高く、エジプトを訪れる以上は極力訪れてみるべき価値がある。ところが、首都カイロから南へ1,500kmも遠方にあり、折角エジプトを訪れてもほとんどカイロ周辺か、ルクソールまで訪れるのが精一杯である。せめてエジプト滞在に1週間の時間を充てエジプト王朝の秘宝を訪れ、古代エジプトの神髓に触れられることを薦めたい。



1989年初めて神殿を訪れた。Xm先まで歩けばナセル湖へドボン